

平成 22 年度豊島区当初予算案 報道発表 次第

平成 22 年 2 月 9 日 (火)
午後 2 時 ~ 3 時
於：第一委員会室

1. 平成 22 年度豊島区当初予算案について

(1) 予算の規模

(2) 新たな取組み

① 新庁舎の整備

世界的建築家の参加を得て、環境都市を象徴する新庁舎に

② モザイカルチャーの設置

池袋西口が生まれ変わり、環境都市の顔になる

③ がん対策の推進

いのちと健康を守り、都内初のがん条例を制定

④ セーフコミュニティの認証取得

都市づくりを集大成、究極の安全・安心都市へ

2. 質疑応答

《配布資料》

- ◎平成 22 年度豊島区予算案重点事業
- ◎平成 22 年度豊島区予算（案）の概要
- ◎「セーフコミュニティ」認証制度について

※予算説明にパワー・ポイントを使用するため、説明中は会場内が若干暗くなります。
写真撮影に際して、ご留意ください。

平成 22 年 2 月 9 日

平成 22 年度豊島区当初予算案

報道発表（説明シナリオ案）

PP=パワーポイントの頁

1 あいさつ

(PP1) タイトル（平成 22 年度豊島区当初予算案報道発表）

- ・ 皆さんこんにちは。
 - ・ 日頃から、報道機関の皆様には、大変お世話になっております。
- 心より御礼申し上げます。

2 22 年度予算規模

(PP2) 財政規模（対前年度比較）

- ・ 平成 22 年度 豊島区の一般会計予算額は、**959億5千5百万円**、前年度に比べ**66億6千5百万円**、**7.5%の増**となりました。
- ・ 不況を反映した税収の減少などで、27 億円の財源不足が見込まれる中での厳しい予算編成となりました。
- ・ 「投資の先送り」などで歳出を減らし、一方、起債や基金の取り崩しによって、歳入増を図りまして、財源対策をいたしました。
- ・ 区民サービスの水準を下げることなく、豊島区の未来ため、不可欠な新規事業は盛り込み、編成できたものと思っております。

3 事業の紹介 1 新庁舎整備

(P P 3) 未来を拓く 4 つの取組み (その 1)

- ・ 本日は厳選された新規事業の中でも、特に「未来を拓く取組み」ということで、4 つに絞ってご説明させていただきます。
- ・ まず「新庁舎の整備」でございます。
- ・ 先々週の 1 月 2 6 日には、「南池袋 2 丁目 A 地区」の再開発組合の設立認可がおりました。いよいよ平成 2 6 年竣工を目指して、新庁舎を含む再開発事業の進展に拍車がかかってまいりました。
- ・ 新年度は、再開発組合の実施設計作業と連携して、新庁舎のレイアウトの作成や総合窓口の検討などに 5 千 3 百 8 0 万円を計上しております。

(P P 4) 新庁舎整備計画 世界的建築家を設計チームに

- ・ 昨年の秋、再開発事業の設計チームが、日本を代表する大手設計事務所である(株)日本設計、世界的に著名な建築家、隈研吾氏、新進気鋭の造園家・平賀達也氏に決まりました。
- ・ ご案内のとおり、隈先生は「根津美術館」「サントリー美術館」など、日本の伝統や環境をテーマとする素晴らしい作品を創造されております。

(P P 5) 新庁舎整備計画 造園家も設計チームに

- ・また、平賀先生は、東急大岡山駅の「東急病院」や大崎の「シンクパーク」などのように、「都市と環境の調和」という課題に、正面から取り組んでおられます。
- ・「東急病院」を拝見しましたが、緑のあふれるすばらしい建築でありました。

(P P 6) 隈研吾氏のイメージ・スケッチ (エコヴェール)

- ・私は新庁舎整備を、単なるハコモノづくりと考えておりません。
- ・これからつくる新庁舎は、「文化芸術創造都市としま」としてのシンボルであり、さらには「環境都市としま」のシンボルでもあり、いわば、文化と環境の融合した、これからの豊島区の都市づくりを象徴する建物にならなければならないと考えております。

【イメージ・スケッチを示しながら】

- ・これは、隈先生が和紙に描いてくださった「イメージ・スケッチ」でございます。次のようなコメントをいただいております。

<隈研吾氏 イメージ・スケッチへのコメント>

イメージスケッチについて

“エコヴェール”・・・樹木の木の葉のようなファサードを考えています。

エコヴェールは、太陽光で発電したり、みどりで日射を^{さえぎ}遮ったりしながら人々の生活に寄与します。

また、グリーン大通りの多様な樹種と呼応するデザインとすることで、豊島区のさらなる発展の起点となります。

21世紀の庁舎のあり方に^{ふさわしい}相応しい“環境庁舎”として機能します。

隈 研吾

・このスケッチが、どのように具体的なデザイン、設計になっていくのか、今からたいへん楽しみであります。

(PP7) 3人でがっちり握手の写真

・隈先生から、「このプロジェクトは、新しい『都市のあり方』を問うリーディング・プロジェクトであり、これまで大きな都市開発の動きの無かった、この池袋という土地には、逆にこれから、それを可能にする好条件がある」と、熱いメッセージをいただきました。

・設計チームの総力を結集して、まさに「自然と都市の調和」をテーマに、「21世紀にふさわしいモデル」としての先進的な計画になるものと期待しております。

- ・また、今回のプロジェクトは、民間と共同で建てる庁舎ということで、日本では初めての試みであります。

- ・区民と行政が協働して進める「官民協働のまちづくりのモデル」でもあり、都市部にあっては、今後このような手法での庁舎整備が、計画されると考えておりますが、その良い事例となるよう挑戦していきます。

(P P 8) 池袋の顔 グリーン大通り

- ・池袋副都心の再生、そのキーワードは「魅力、活力、みどり」であり、この「グリーン大通り」はまさに「東口の顔」であります。

- ・その名の通り、グリーンベルトとして、さわやかな「風の道」として、この新庁舎の計画地に向かいます。

(P P 9) 池袋副都心将来イメージ図

- ・この「風の道」は、計画地から、環状5ノ1号線を経て、雑司が谷の森へとつながります。このように、新庁舎は、池袋副都心を貫く重要な「みどりの都市軸」のまさにポイントとなる場所にあるわけです。

- ・庁舎の移転によって、東池袋の「現庁舎地」も新たに活性化しますし、造幣局を含む「東池袋まちづくり」も、新年度には本格的な検討に入ります。

・ こうして、新庁舎整備を起爆剤とする池袋の再生、すなわち池袋副都心グランドビジョンの実現によって、みどりに囲まれた大きな回遊性が生まれ、同時に、「人と環境に優しい池袋副都心」、「環境都市としま」のシンボルとしてLRTなど新たな交通体系も必要となつてまいります。

・ 次にご紹介いたしますが、西口の駅前広場も環境の顔となるよう整備をいたします。ここから伸びる「アゼリア通り」そして立教通りを経て立教大学の森へと、西側では、これが大きな緑の都市軸、になります。

・ 補助172号の開通で通過交通が大きくシフトすることで、西側の軸を大きく豊かな緑にすることが現実的になってまいります。

・ そうして最後に、東・西の緑の都市軸をつなぐもの、これが、環境都市を象徴する緑豊かな「東西デッキ」であると考えております。

4 事業の紹介2 モザイカルチャー

(PP10) 未来を拓く4つの取組み(その2)

・ 続いて、池袋西口駅前広場へのモザイカルチャーの設置であります。設置経費として3千万円を見込んでおります。

(PP11) 生まれ変わる池袋駅西口駅前広場

・ 池袋駅西口では、駅前広場の40年ぶりの大改造が現在進行中で

す。来年3月の完成で、西口は本当に大きく生まれ変わります。

・エレベーターの新設などで、バリアフリーはもちろん確保いたしますが、この整備を機に、この広場に「モザイカルチャー」を設置して、西口広場を「環境都市」の顔にしたいと考えております。

(PP12) モザイカルチャーとは (浜松市別写真)

・この「モザイカルチャー」というのは、彫刻と花と緑を融合させた立体芸術であります。

・新たな緑化技術であると同時に、文化面でも注目されておりまして、去年は、浜松市で「世界博」も開催されております。

・去年の「浜名湖立体花博」のチラシもご覧ください【ウネギイヌ】

・私も浜松へまいりましたが、たいへんインパクトがありまして、見る者に緑や環境ということを大きくアピールする力があると思っております。

(PP13) モザイカルチャーを設置

・これまでも様々な環境施策に挑戦してきた豊島区ですが、新年度は、都内で初めて、この「モザイカルチャー」の設置に取り組めます。

・この「モザイカルチャー」で、訪れる方々に「環境都市としまへようこそ (Welcome)」という気持ちを強く表現したいと考えております。

5 事業の紹介3 がん対策

(P P 1 4) 未来を拓く4つの取組み(その3)

・続いて、がん対策の推進でございます。拡充した検診経費等も含めると、**2億8千6百万円余り**を投入するものであります。

(P P 1 5) がん対策 現状と対策

・国民の2人に1人が「がん」になり、3人に1人が「がん」で亡くなっております。豊島区も同様であります。

・区民の「いのち」と健康を守ること、自治体にとってこれ以上重要な仕事はありません。

・「がん対策」については、健康政策の要であり、間違いなく、最重要課題であります。

・すでに1月に私を本部長とする「がん対策推進本部」を立ち上げ、**東京初の「がん対策条例」の制定**、あるいは予防計画の策定などに取り組むことを決めたところでございます。

・この分野ではたいへん著名な、東京大学医学部の中川准教授を推進会議の会長にとお願いし、快諾をいただいております。

(P P 1 6) がん対策の総合的な取組み 目標

・新年度は、条例や計画を検討・策定しながら、総合的な「がん対策」を目指してまいります。

・特に、「**受診勧奨**」には様々な工夫をこらし、現状では23区で

も下位にある受診率を大幅に向上させていきたいと考えています。

6 事業の紹介4 セーフコミュニティ

(PP17) 未来を拓く4つの取組み(その4)

- ・最後に、セーフコミュニティの認証取得でございます。
- ・調査経費など9百万円あまりを計上しておりますが、この豊島区が進める「セーフコミュニティ」は、先ほどの「がん対策」も含む、「画期的な都市づくりへの挑戦」であると考えております。

(PP18) セーフコミュニティ認証に挑戦

- ・豊島区は、これまでも、地域コミュニティと一緒に、安全・安心活動を広く展開してまいりました。
 - ・豊島区での高齢化の進展、特に単身世帯が多い地域特性を考えますと、将来への懸念、すなわち、事故やけが、災害、犯罪、虐待、自殺、孤独死と、「外傷」による被害は多様化してきております。
 - ・WHO・世界保健機関では、「けがや事故などは、偶然の結果ではなく、必ず予防できる」という理念・考え方で、「予防に重点を置いた安全と健康の質を高めるまちづくり活動」を推進しています。
- これを「セーフコミュニティ」といい、認証制度がございます。
- ・「セーフコミュニティ」は、日本では2つの自治体、世界では177都市がその認証を取得していますが、豊島区は、区制80周年を迎え

る2年後の2012年に認証を取得することを目指し、東京で初めて、このWHOの認証取得に挑戦いたします。

(PP19) 高密都市からセーフコミュニティの姿を発信

・新年度より始まるセーフコミュニティへの取り組みは、地域コミュニティによる安全・安心活動をパワーアップすることです。

・**世界水準**として評価されるために重要なのは、一つは、外傷データの収集にはじまり、**科学的な分析**に基づいて、さまざまな場での**「予防プログラム」**をつくること、**持続可能な仕組みをつくること**であります。

・もう一つは、地域の安全・安心へのさまざまな取り組みを、**部門横断的に連携・協働する仕組み**であります。早速、今月中に、警察、消防はもとより、町会からPTAに至るまで、広くお呼び掛けをし、協働して担っていく協議会を結成したいと考えております。

(PP20) 安全・安心都市は都市づくりの集大成

・これまで豊島区は、**「環境先進都市」**を目指し、**「文化芸術創造都市」**としての表彰を受け、また池袋の再生をはじめ**「都市再生の推進」**を着実に進めてきました。そして、さらに、健康対策を重視して**「生涯健康都市」**を目指してまいりました。先ほどの**「がん対策」**などは、まさにその中心となるものであります。

- ・これまでの都市づくりをふまえ、WHOの認証取得へ挑戦するわけですが、目指す豊島区の都市づくりの集大成が、この究極の「安全・安心都市」であり、これこそが、日本一高密な都市から発信する豊島区版の「セーフコミュニティ」だと考えております。
- ・今後、2月22日には協議会の結成に合わせ、取得に向けた共同での宣言を行いたい、そして3月に韓国で開かれる国際会議にも参加したいと思っております。
- ・お手元に、「セーフコミュニティ」についての説明資料もお配りしておりますので、参考にさせていただければと思います。
- ・共同宣言の発表の際は、皆様にもあらためてご案内いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

7 終わりに

- ・その他詳細は、配布資料をお読みいただき、不明な点は遠慮なく担当にお問い合わせください。
- ・財政状況が厳しい中、新年度予算と新たな取り組みで豊島区の未来への展望を拓くことができたと実感しております。
- ・本日はどうもありがとうございました。どうぞよろしく。